

化 學 研 究 所

講 演 集

第 十 四 輯

昭 和 二 十 二 年 三 月

京 都 帝 國 大 學

化 學 研 究 所

化學研究所講演集第十四輯目次

1 結晶性蛋白質素に關する研究	内野研究室 中 村 正 二 郎	1
2 長期保存後に於ける Arseno-benzolnatrium の治效力に就て	荻生研究室 吉 岡 政 七 隆 赤	7
3 金オルガノゾルに關する研究	堀場研究室 山 北 逸 郎	12
4 α, α -Diphenylethaneに關する研究 (第3報) スルフオン化に就て	野津研究室 李 漢 英	29
5 脱脂大豆蛋白質の貯藏中に於ける變質に就て	近藤研究室 森 茂 樹	33
6 種實グロブリンの變質に就て	近藤研究室 森 茂 樹	37
7 肉蛋白質の變質に就て	近藤研究室 森 茂 樹	43
8 デリス根の有効成分定量に關する研究 (第6報) デリス乾燥根の水抽出液に對する二三金屬イオンの影響	武居研究室 官 島 式 郎 吉 武 居 三 吉	51
9 デリス根の有効成分定量に關する研究 (第7報) デリス生根の水抽出液の變質に就いて	武居研究室 官 島 式 郎 吉 武 居 三 吉	55
10 デリス根の有効成分定量に關する研究 (第8報) デリス 乾燥根の水抽出液の光線に依る變質に就て	武居研究室 官 島 式 郎 吉 武 居 三 吉	59
11 デリス根の有効成分定量に關する研究 (第9報) デリス 乾燥根の水抽出液に對する各種防腐劑の影響	武居研究室 官 島 式 郎 吉 武 居 三 吉	63
12 デリス根の有効成分定量に關する研究 (第10報) デリス 根粉末の光線に依る變質に就て	武居研究室 官 島 式 郎 吉 武 居 三 吉	66
13 除蟲菊の有効成分定量に關する研究 (第13報) 除蟲菊のベンゾールエキスの變質に就て	武居研究室 若 園 潔 三 吉 武 居 三 吉	70
14 超高温ガス加熱爐に就て	澤井研究室 澤 井 郁 太 郎 功 刀 雅 長	74
15 一酸化炭素と水素よりガソリン合成に關する研究 (第68報) 合成油の分溜による分析(2)	見玉研究室 多 羅 間 公 雄 田 付 研 胖 笠 井 研 一 武 上 善 信	79
16 スチロール並にセテンの合成に就て	小田研究室 小 田 良 平	84
17 中間子に就て(特別講演)	理學博士 湯 川 秀 樹	97
18 皮革工業の問題(特別講演)	農學博士 井 上 吉 之	109
19 閉 會 の 辭	農學博士 近 藤 金 助	123

閉 會 の 辭

近 藤 金 助

堀場所長が閉會の辭を述べることになつて居りました所、昨今引籠り中でありますので、私が代つて閉會の辭を述べます。

今日御講演を願ひました6名の所員諸氏に於かれましては多年の間蓄積せられました蘊蓄を短時間のうちに極めて巧妙簡明に披瀝して下さつたので、聴衆一同は定めし大いに裨益する所があつたことと思ひます。お蔭に依りまして、今回の講演會を成功裏に閉ぢんとするに當りまして今日講演をなさつて下さいました所員諸氏の勞に對し此の席から化學研究所の名に於て謝意を表し併せて其の權威に對して敬意を表する次第であります。

今回は堀場所長の發案に依りまして例年とは趣を變へて綜合講演會を催うした次第であります。定めし聴衆諸君に於かれましては各講演が總て充實して居りましたので御期待に副ふ所があつたこと、考へますが、朝來引續きの御清聴では定めしお疲れであると想像致します。にも拘りませず諸君は終始熱心に御聴講下さいまして、本講演會の目的達成の一翼を完全に果して下さいましたことに對しまして私から厚く御禮を申し上げます。

當今我が帝國が容易ならぬ難局に直面して居りますことは言はずもがなのことでありまして、此の難局を打開致しまする爲に吾々大學人は科學への精進に依つて御奉公致さうと思ひまして日夜心を砕き、全力を傾注して盡して居るのでありまして、其の結果の一端が、今日の講演會として現れた次第であります。

只今阿部所員が講演されましたやうに、我が研究所に於きましては電氣材料に關して理論的にも又應用的にも致々研究して居ります外に只今講演された事柄を中心に致しまして電氣材料創製並に改良に關して各専門所員が相協力して綜合的に研究を成し遂げて通信機、飛行機、潛水艦等の製作に用ふる良き優れた材料を提供したいと云ふ希望の下に研究を始めて居るのであります。

又今日最初に刈米所員から大東亞共榮圏内に於ける生藥資源に關して講演がございましたが私共は之等をも亦一つの研究題目と致しまして南方方面に於きまする地上、地下の資源。言葉を換へまするならば植物資源、動物資源、礦物資源の化學的利用に關する研究を綜合的に又出來るだけ徹底的に致しまして刻下の此の窮狀を救ふために御奉公をしなければならぬと致々努めて居る次第であります。

御參集の諸君に於かれましても化學研究所員は之等の方面に總力を結集して研究を進めて居ることを御理解下さいまして今後益々應援をして下さることを希ひます。之等の研究に關しましては、次いで催うされます講演會に於て發表する機會があることと思ひますので、其の節

には又今日の如く多數御參集を得て講演會開催の實を擧げたいと、之を今からお願いして置きます。

會を閉づるに當りまして私は講演なさつて下さつた所員諸氏に對し、又熱心に御清聴下さつた聴衆諸君に對し尙又今日の講演會開催に當つて色々と盡力して下さつた準備委員の諸氏に對して謝意を表し、併せて今日の講演會が極めて盛會裏に終始したことを掘場所長が聞かれた場合に、定めし満足され、其の結果病氣も飛んで行つてしまい、明後月曜日からは舊に倍した元氣を以て研究所、研究室にお出でなさるであらうことを豫想し且つ之を希望致しまして閉會の辭の結びと致します。(拍手)

昭和二十二年二月二十五日 印刷

昭和二十二年三月十日 發行

化學研究所講演集
第十四輯

定價 金五十圓也

編輯者 京都帝國大學化學研究所
代表者 近藤金助

發行者 中原脩司
京都市中京區寺町夷川上ル四六

印刷者 大寶印刷株式會社
代表者 石井喜太郎
京都市下京區東九條山王町三八

發行所 **力ニヤ書店**

京都市中京區寺町夷川上ル四六
電話上 2555 振替 23404